

## Tazaki 財団英国留学奨学金留学成果報告書

## 一橋大学

所属学部・学年	商学部・3学年	氏名	ソン・スンヒョン
派遣先国 (地域)	イギリス	派遣先大学	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン大学
派遣期間	2023年9月～2024年6月		

## 留学目的の達成度・留学成果について

私は主に二つの留学目的がありました。一つ目は自分の主張がはっきり言える人として成長することで、二つ目は単に「英語が得意な人」という枠から脱却し、様々なジャンルや活動に参加し、自分の限界に直面し、「自分」というアイデンティティを新しく作ることでした。UCLは、世界中から熱心で意欲的な学生が集まる世界トップの大学であるため、私はこれらの留学目的が達成できたと感じています。

初日の授業から、クラス全員がいかに情熱を持って取り組んでいるのかが感じられました。ほかの学生が投げかける洞察力のある質問を通じて、私も同じように自分を高めたいという気持ちが湧き、他人の目を気にせずに自分の考えを自由に話せるようになりました。

また、私は幼い時から英語が得意だったのですが、英語圏で生活することで単なる「英語が得意な人」以外の自分を探求したいという気持ちを留学の前強く持っていました。英語圏であるUCLでの一年間は、その願いを叶える絶好の機会となりました。英語が流暢であることが普通であったロンドンでは、私は自分のアイデンティティの他の側面を見つけることができました。演劇やタンゴ、サルサなどの新しい活動に挑戦したり、多様な人々と交流したりしながら自分のことについてよりわかることができました。自分の言語能力以上のものを認められ、評価されることは、信じられないほど解放的なことでした。このことは、それまで十分に認識していなかった他の才能や資質を探求し、伸ばす自信を持たせてくれました。

## 海外での生活について

幼い頃から海外で暮らしたいと願っていた私は、ロンドンでの生活が学問の領域を超えた豊かで変革的な経験となりました。街の活気に満ちた雰囲気と豊かな歴史は、探検と自己成長の無限の機会を提供してくれました。ロンドンが誇る多様な地域や象徴的なランドマーク、世界的に有名な観光名所を発見することを心から楽しみました。ウェストミンスター歴史的魅力からカムデンの個性的なエネルギーに至るまで、市内の各エリアがそれぞれ独自の個性と体験を提供してくれました。

海外での時間の中で、世界中の人々と出会うことが最も価値ある経験の一つでした。学生仲間や地元の人々、そして専門家との交流を通じて、故郷では出会うことのなかったさまざまな視点や背景に触れることができました。これらの交流は私の視野を広げ、世界の文化や考え方への理解を深めてくれました。ロンドンでの一年間に築いた友情や人脈は、個人的にも職業的にも非常に貴重なものとなりました。

文化的・社会的な経験に加えて、ロンドンでの生活は実践的な生活スキルやより強い自立心も育ててくれました。新しい街での生活、日常の責任を管理すること、そして異なる学問体系に適應することは、私の個人的な成長と自信に大いに貢献しました。

総じて、ロンドンでの時間は、文化的な没入、個人的な成長、学問的な充実が融合した忘れられない冒険でした。この期間に得た経験と思い出は、帰国後も長く私を支え、インスピレーションを与えてくれると思います。

#### 派遣先大学の授業内容について

私は主に「Digital Conversations and Marketing」, 「Mergers and Valuation」, 「International Strategy」, 「Managerial Accounting for Decision-making」, 「Global Marketing Strategy」などのビジネス関連の授業を履修しました。最初の「Digital Conversations and Marketing」では、組織がデジタルマーケティングをどのように活用して顧客やパートナーとの関係を構築し、維持するかに焦点が当てられました。当授業では、デジタル環境で分散した顧客層にリーチし、関与を促すための戦略を探求しながら、モバイルやインタラクティブなデジタルチャネルを通じて効果的なマーケティングキャンペーンを設計する方法を学びました。

「Mergers and Valuation」では、企業および合併の評価に焦点が当てられ、企業価値の算定や合併の成功を評価するための主要な方法論（ディスカウントキャッシュフローなど）を探求しました。当授業は私に特に難しく感じられました。なぜなら、母国の大学で受けた金融関連の授業では、これほどまでに深く金融理論を学ぶことはなかったからです。ビジネス専攻であっても、初めて学ぶ概念がいくつもありました。しかし、UCLの授業は週を通してさまざまな形式で行われるため（講義に加えて、セミナー、ラボ、チュートリアルなどが提供されています）、複数の視点から学習することができ、授業内容についてより深く、より細かい理解を得ることができました。

「International Strategy」では、企業が国境を越えてどのように戦略を立てるかに焦点が当てられ、異文化や市場の違いに注目しました。講義やケーススタディを用いたセミナーを通じて、国際的な展開、多国籍企業の運営、新興市場向けの戦略を分析する方法を学びました。「Managerial Accounting for Decision-making」では、財務意思決定のための管理会計を探求し、コスト管理、予算管理、投資評価に焦点を当てました。主要なトピックには、間接費の回収、アクティビティベースコストリング（ABC）、差異分析が含まれ、財務分析と経営判断の統合が強調されました。最後に「Global Marketing Strategy」では、国際的なマーケティング戦略を開発し実行するためのフレームワークを学びました。標準化と適応のバランスを取ることや、グローバル市場向けのマーケティング戦略の設計が主要なトピックとして取り上げられました。この授業を通じて、私は市場のトレンドを調査し、市場参入戦略を検討し、グローバルおよびローカルの両方の視点を考慮したマーケティングミックスを開発するスキルを身につけました。

授業が簡単には感じられなかったのですが、知的に刺激的な学問環境から多くのモチベーションを得ることができました。講師や教授陣は、各分野の専門家であり、豊富な知識を持っているだけでなく、自分の専門分野に対して非常に情熱を持っていました。その情熱は学生にも伝えられ、私自身も挑戦する意欲が湧いてきました。講義以外にも、UCLの授業は週を通してさまざまな形式で行われるため、学生は授業内容についてより深く理解し、複数の新鮮で異なる視点からアプローチすることができます。ほとんどの授業は講義とセミナーの形式で提供されるため、授業内容をより深く、細かく理解するのに役立ったと感じています。

## 今後の学習・進路への影響について

UCLでの一年間は、特にコンサルティングと金融の分野において、私の学問的およびキャリア目標に大きな影響を与えました。ビジネス関連の授業は、理論と実践を結びつけ、金融市場や企業戦略に対する理解を深め、将来のキャリアにとって重要な基盤を築いてくれました。

多様なバックグラウンドを持つ仲間たちとプロジェクトに取り組むことで、分析力や問題解決能力が磨かれました。また、ロンドンという世界的な金融ハブにいて、業界イベントに参加し、プロフェッショナルとネットワーキングを行う機会を得られ、これらの分野への興味が一層強まりました。たとえば、ボストン・コンサルティング・グループのロンドンオフィスで開催された「UCL Meet the BCGers 2024」というイベントに参加しました。この機会を通じて、現役のコンサルタントと話し、職場環境についての洞察を得るとともに、応募者に求められるスキルについて学ぶことができました。

今後、UCLで得た知識とスキルは、私が学業を続け、キャリアをスタートさせる上で非常に貴重なものとなると思います。

## 寄附者への謝意

この度、UCLでの留学という人生を変えるような経験を実現するためにご支援いただいた Tazaki 財団の皆様へ、心から感謝申し上げます。この経験は、私の人生に想像していた以上に深い影響を与えてくれました。UCLでは、知的な限界を押し広げる厳しい学問環境があり、一方でロンドンという多様で活気に満ちた都市は、豊かな文化とさまざまな視点を私に提供してくれました。

UCLでの一年間は、単なる学業以上のものであり、自分自身を発見し成長する旅でもありました。世界中から集まった優秀な学生たちと交流し、意見を交わし、生涯にわたるつながりを築くことができました。歴史、革新、そして創造性に溢れるこのようなダイナミックな都市での生活は、日本に戻ってからもずっと記憶に残ると思います。この経験を通じて、世界と自分自身の役割についてより深くわかることができ、私の個人的および職業的な目標に大きな影響を与えました。

このような素晴らしい都市にある世界的に有名な教育機関で学ぶという貴重な機会は、Tazaki 財団のご支援があってこそ実現できました。この経験は、私の人生で消えることのない印象を残し、これからもずっと心に刻まれると思います。この場を借りて、Tazaki 財団に感謝いたします。